

通勤、買い物物どうすれば…

市民、札幌往来自粛に困惑

コロナ感染拡大

道内で新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからない中、道が札幌市以外の道民に札幌との不要不急の往来自粛を求めたことで、隣接する札幌と生活圏、経済圏がともに近い小樽市民に困惑が広がっている。通勤や通学、買い物など細かな用途への言及がなく、自粛要請内容の「感染リスクを回避できない場合」も判然としないことが判断を難しくさせている。

（鈴木孝典、前野貴大、日野夏美）

「何げなく行っていた札幌のスーパーに、急に行きづらくなった」。札幌市手稲区と隣接する小樽市星野町に住む会社員戸谷幸代さん(43)は戸惑い気味に話す。日頃の買い物は生活圏が同じ手稲区のスーパーに4歳の長女を連れて行くが、札幌市との不要不急の往来自粛が要請されたこと

で「行っていないのか不安が増してきた」と話す。道は、不要不急の往来自粛の前提となる「感染リスクを回避できない場合」について、道の「新北海道スタイル」を実践していない施設の利用、5人以上でマスクをせずに大声での会話、2時間以上の飲食などを挙げる。ただ日常生活へ

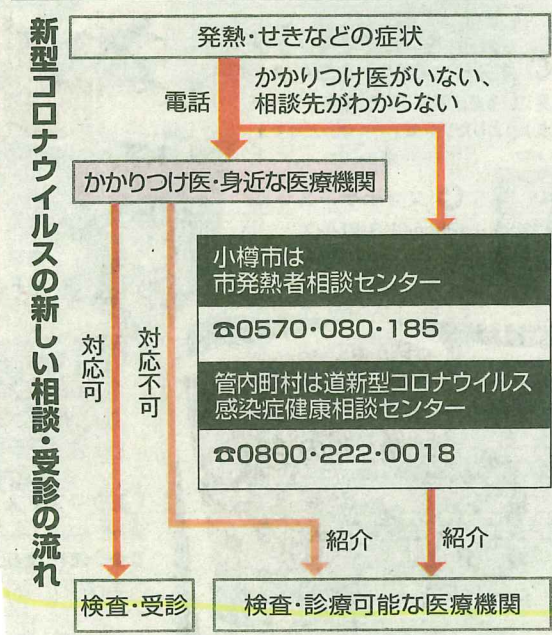
の言及はなく「往来自粛」の言葉だけが一人歩きし、市民に迷いが生じる一因になっている。小樽市内の飲食店に勤務する男性(34)は

「仕事上、週1、2回のペースで札幌と行き来するが「感染リスクを回避できない場合がどんな状況なのか分かりにくい」といふかる。一方、高校、大学は戸感

いながらも対策を進める。北照高は16日から、これまで自主的に行うよう促してきた生徒の検温を登校時学校として行い、発熱があ



札幌行き的高速バスが並ぶJR小樽駅前のバスターミナル。通勤、通学客が乗り込んでいく=18日朝



小樽で4人感染
小樽市は19日、新型コロナウイルスの感染者を新たに4人確認したと発表した。市発表の感染者数は177人(実人数)となった。いずれも市内在住で、20代の女性会社員と同じく20

代の職業非公表の男性、年代や性別など非公表の2人。20代の男性は感染経路不明で、ほか3人はこれまで発表されている感染者の同居家族などだった。いずれも軽症で自宅に待機し、入院先を調整している。(日野夏美)

る場合は下校させる措置を始めた。札幌から通う生徒には電車やバス内でもマスク着用を徹底するよう指導している。石森照雄教頭は「札幌から通う学生の自宅待機も考える必要があるかもしれないが、受験や就職

活動がある中、難しい」と悩ましがた。小樽商科大は緊急の危機対策本部会議を18日に開き、20日にもセミナーなど対面授業のあり方や学内施設の利用法をホームページに掲載する予定だ。